

図書情報センターニュースレター

(旧 図書館ニュースレター)

(改訂版) 第5・6号合併号

■図書館蔵書充実プロジェクトチーム*選定の図書(2022年度2期分)が配架されています！

図書情報センター委員会図書館蔵書充実プロジェクトチームの選定した看護学図書(2022年度分2期分)が配架されていますので、リストを掲げてお知らせします。最新の図書を中心に選定されていますので、是非ご利用下さい。

- ・『はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神科看護過程 第3版』焼山 和憲 著
医歯薬出版 978-4263237663
- ・『今はこうする ケアの根拠』林直子(編集) 照林社 978-4796525749
- ・『学習する組織としての 看護実践のリフレクション』鈴木康美(著)
総合医学社 978-4883789306
- ・『看護倫理 改訂第2版』川口孝泰(編集) Gakken 978-4780913309
- ・『小児看護技術 第3版』添田啓子(著, 編集) メヂカルフレンド社 978-4839216955
- ・『看護のためのリフレクションワークブック』田村由美(著)
看護の科学新社 978-4910759050
- ・『熟練看護師のプロの技見せます! 慢性看護の患者教育』河口てる子(編集)
メディカ出版 978-4840464840
- ・『意思決定をする人・その支援をするすべての人に向けた参考書』森岡広美(監修)
金芳堂 978-4765318600
- ・『イラストでまなぶ 人体のしくみとはたらき 第3版』田中越郎(著)
医学書院 978-4260038874
- ・『イラストでまなぶ解剖学 第3版』松村 譲児(著) 医学書院 978-4260032520
- ・『イラストでまなぶ生理学 第3版』田中 越郎(著) 医学書院 978-4260028349
- ・『世界一わかりやすい介護保険のきほんとしくみ 2021-2024年版』イノウ(著)
ソシム 978-4802612982

*図書館蔵書充実プロジェクトは、本学の図書情報センター委員会のメンバーによるプロジェクトで、現在は、看護系教員3名のメンバーで活動しています。

■教育ボランティアの方々からお勧めの図書をご紹介いただきました！

本学の図書館は、学部生、大学院生、教職員の皆さんの学習や研究に役立つ資料、また広く情報や知識を得たり、時には心身の健康や安寧にも有効な資料の収集、配架、展示を主目的に運営されています。さらに、神戸市民をはじめとする近隣にお住まいの皆さんにも積極的に資料の閲覧の利便を図るなどして開放しています。そのような中で、2022年の冬には嬉しい交流がありましたのでお知らせします。

本学の看護学教育には、近隣に在住の方々他に他所では得難いサポーター（教育ボランティア）としてご協力を賜っています。教育ボランティアとして本学で学生に接し貴重な御指導をいただいている方々に「看護大生に読ませたい本」のご推薦をお願いしましたところ、早速に応じて下さる方が何名もいて下さいました。図書館では、ご推薦いただいた図書を館内1階に推薦者からのお勧めのことば等と合わせて展示し、入館者が気軽に手に取り、貸出カウンターで借り出しを可能にしています。以下にご推薦いただいた書籍名を掲げます。どうぞ、館内にて一度、手に取って、推薦者の方々のコメントなどをお読み下さい。

書名	著者	出版社
『集英社版学習漫画世界の伝記 NEXT ナイチンゲール』	堀内 雅一	集英社
『ナイチンゲールの『看護覚え書』』	金井 一薫	西東社
『我が家のヒミツ』（短編集）の中の「手紙に乗せて」	奥田 英朗	集英社
『70歳が老化の分かれ道』	和田 秀樹	詩想社
『飼猫ボタ子の生活と意見』	曾野 綾子	河出書房新社
『「ひと」として大切なこと』	渡辺 和子	PHP 研究所
『生きるとは、自分の物語をつくること』	小川 洋子、河合 隼雄	新潮社
『あふれる愛』	金澤 泰子	どう出版
『産まれてすぐピエロと呼ばれた息子』	ピエロの母 ベストセラーズ	
『グラ キツネ 馬』	チャーリー・マッケジー	飛鳥新社
『坂の上の雲』	司馬 遼太郎	文藝春秋

図書推薦にご協力下さった教育ボランティアの方々に厚く御礼申しあげます。

■図書館 AV 機器の交換を進めております！

図書館の機器類の中で、特に AV 機器については、以前より老朽化のため、使えない状態のものが少なからずありましたが、徐々に機器類を最新のものに取り替えつつありますので、格段に利用しやすくなりました。使い方、その他資料についてご不明の点は遠慮無く図書館カウンターにお尋ね下さい。館内 AV 資料につきましても、館外貸し出しにつきましても、貸出可能な資料の購入を試験的に進めて行きます。詳しくは館員にお尋ね下さい。

★図書情報センターニュースレターは不定期で刊行しています。本学 HP の図書館ページに掲載し、学内には「いちかん」等にて配信いたします。図書館内では紙媒体でも若干部数をご用意しますのでご自由にお取り下さい。

■2022 年度冬に行った利用者アンケートの結果が出ています。館内に掲示します。

2023 年 1 月～2 月にかけて行った図書館利用者アンケートの集計結果と寄せられたご意見を館内に掲示いたします。様々な改善点の指摘や新しい提案なども多数、いただいております。出来ることから、どんどん改善して行きたいと思っております。一方、大規模工事が必須であったり、大きな予算が必要になったり、様々な意見が拮抗するような事項につきましては、直ちに実行というわけには行かないのですが、いただいたご意見を無駄にすることなく、時間をかけて検討してまいります。

なお、ご希望の書籍の購入や参考資料の取り寄せ方法、館内の設備などの不具合の解消方法などにつきましては、どうかカウンターに積極的に寄せ下さい。特にご希望の書籍購入などにつきましては、随時受け付けていますので、是非、具体的な書名などをお知らせ下さい。必要な図書についての問合せを館員一同、歓迎いたしております。

■図書館では、図書館イベントや展示のトピックについて、アイデアやご希望を求めています！

2022 年度は館内に展示コーナーを設けて、トピックを選んで特別展示を行いました。たとえば、「ウクライナについて」、「LGBTQ について」等、館内資料をコーナーに展示し、入館者の関心を呼び、情報提供の工夫をしました。来年度も看護学はじめ、様々な学術分野、あるいは、社会で関心の高まっているトピック等を選んで、館内特別展示を行いたいと思っております。図書館利用者の皆様からのご提案やご希望を募ります。また、トピックについて、ミニセミナーなどを提供できる、あるいは、トークセッションの企画の持ち込みなど、大歓迎いたします。図書館のダイナミックな活用提案を期待します。簡単に概要などを記して直接に図書館カウンターにお持ち下さい。学内の図書情報センター委員会で検討してまいりたいと思っております。

■LIC ノート コンタクトレンズケースのルール？

図書情報センターとは、関係ないのですが、私は 16 才の時から、およそ 50 年近く、コンタクトレンズを入れています。ソフトコンタクトレンズだったり、ハードコンタクトレンズだったり、手入れの面倒と価格を考慮しながら、メーカーも時々変更しながら、ずっと使っています。ここ数年は、老眼用のコンタクトレンズというのがあるので、専らそれを利用しています。

コンタクトレンズは視力を矯正するものなので右と左の別があるのですが、保管ケースもそれぞれ、右、左、とか、R（ライト）、L（レフト）とか表示があります。一目で分かるように大抵、キャップの色が異なっています。多くの場合、白色のキャップとカラーのキャップで区別し易いように工夫されています。緑と白、とか、水色と白、という具合に。最初にコンタクトレンズを買った時にお店の人に、「右は、ミで始まるから、水色の方へ入れる、と覚えて下さい」と言われました。確かに、水色の方に R の文字が入っていました。何度も

(裏に続く)

買い換える経験をしました。右のケースのキャップの色が水色か緑ばかりだったようで、簡単にどちらに右を入れるか、問題無い年月を過ごしていました。

ところが、数年前にコンタクトレンズを取り替えた時のケースがやはり水色と白でしたが、問題は、水色のキャップの方にL、つまり左の表示があるのです。間違えないようにしなくては、と毎晩、コンタクトレンズを外して保管する時に、気を付けなくてはならないことになりました。ついうっかり、入れ違えてしまったこともあります。そのように1と月、2月過ぎた後、ふと、これって、別に自分でどちらに入れたらいいか決めたらいいのじゃないか、とハタと思い当たりました。その後、水色のLを無視して、水色に右を入れ使用しています。寝る前の緊張がなくなり、平和です。

何だか、そんなの当たり前、気づくのがなんて遅いんだと読者はお思いでしょう。とにかく、こう書いてあるからこうしなくっちゃ、よく分からないけど、と思いながら、いつの間にかルールとも言えないルールを無意識に受け入れ続けてしまって、それを守るために知らない間に自分にストレス、誰のためでも、誰のせいでもないストレスに晒されていることであるのじゃないかしらとあらためて思いました。

図書館においでの方の中、何だか窮屈だなど思うことがある人は、ご自分の日常を見直してみると、少し楽になるかもしれません。規則や決まりごとというものについて、時間のあるときにふと考えてみてください。

藤代節（図書館情報センター長・任期 2023 年 3 月 31 日まで）



今号の図書館情報センターニュースレターは、年度末にあたり、年度の振り返りを含めた増刊合併号といたしました。2023年度も図書館並びに情報センターからのお知らせなどを記載しつつ、学習、研究の合間に楽しんでいただけるニュースレターを目指します。利用者からの寄稿もお待ちしております。2023年春



★図書館情報センターニュースレターは不定期で刊行しています。本学 HP の図書館ページに掲載し、学内には「いちかん」等にて配信いたします。図書館内では紙媒体でも若干部数をご用意しますのでご自由にお取り下さい。